奈良新聞　平成26年（2014年）7月26日　土曜日

玉置神社神代杉

「世界遺産要件侵す」

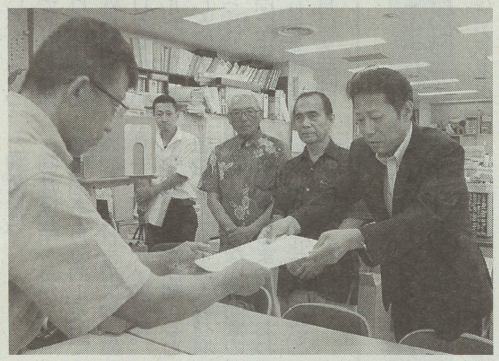
着生木伐採　住民、議連が質問状

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる十津川村玉置川の玉置神社境内で、ご神木の神代杉（県天然記念物）の着生木が伐採された問題で、住民団体「奥熊野玉置の世界遺産を守る会」などは25日、樹勢回復を目的として伐採を助成した県に対し、質問状を提出した。34項目で県の見解を問い、文書での回答を求めた。

県助成の見解問う

県教育委員会は平成24年に玉置神社境内で神代杉などの調査・診断を実施。この結果を受けて、同神社は昨年11月、約10本の着生木を全て切り落とした。県が事業費の2分の1、約33万円を補助した。

これに対し、守る会などは「着生木も含めて信仰の対象」と主張。「紀伊山地の霊場と参詣道は、人々の信仰の営みが評価された世界遺産であり、今回の信仰の毀（き）損は世界遺産の登録要件を侵す行為だ」と問題視、世界遺産条約や県文化財保護条例、県自然環境保全条例などに基づき「着生木伐採に正当性を確認できない」とした。



質問状を手渡す世界遺産議連の玉置特別顧問（右端）、守る会の原代表（右から2人目）ら＝25日、県庁

着生木には直射日光や風雪を和らげる効果があったとし、「着生木が伐採されたために神代杉の枝や幹が折れることが懸念される」とする専門家の意見も添え、生態学的にも不適切と指摘した。

守る会の原秀雄代表＝十津川村玉置川＝は「ご神木という観点の考察が全くなかったのではないか。もっと慎重に判断されるべきだった」と話した。

守る会の要望を受けてこの問題を調査している世界遺産国会議員連盟（馬淵澄夫代表）の玉置公良特別顧問＝和歌山県＝も質問状を提出。「ご神木に関わる重要な問題が、氏子の理解なく進められたことが分かってきた。この議論を世界遺産保全意識の向上につなげたい」としている。

県教委文化財保存課の小槻勝俊課長は「神代杉の樹勢回復のため、県文化財保護条例に基づく手続きを経て行った措置。質問状の内容を確認し、対応する」と話した。